

実践事例や教材の活用事例等、英語科の先生方に参考にしていただける情報をお届けします。

実践 紹介

「書ける力」が「読める力」を育てる(3)

ートピックセンテンスから読解力へー

富士高等学校附属中
紺野 正典

Writing力、ひいてはReading力を伸ばす3年生の実践をご紹介します。



話題文を使って、構成のある文章で意見文を書きます。

●1 「話題文 (Topic Sentence)」から構成のある英文を読み切る力をつけさせる

1年生では、「話題文」という言葉を使いませんが、2年生になって英文日記を書くようになるとその重要性について触れます。複数の段落のある英長文を理解するために、話題文について学ぶことは大事です。「県立や都立入試問題では、物語文が出題されるので、このような指導は不要では」という意見もあると思いますが、話題文の指導は、説明文のためだけではなく、読解の整理力を育てる指導だと考えています。話題文は、英長文を読む際の手がかりであり、英長文の構成が主張 → 理由 → 具体例 という構造であることを掴むのに役立ちます。ひいては、このような英文の構造を理解することで読解力も向上します。また、将来、生徒が自分の考えを英語で表現する際にも役立つのです。

話題文のある文章についての指導は、具体的には例えば、**I played soccer with my friends last weekend.** という文を生徒に提示し、「この文の具体的な中身を書いてごらん。」「**why, where, how**や感想を書き加えてごらん。」と言って英作文をさせます。このように話題文に具体文(サポート文)を続ける経験を重ねることが、これらの文の関係を理解することにつながります。

●2 すぐに理解できる英文から、「噛みしめる英文」へ

生徒が「意味は分かる」と言って終わってしまう英文は、「理解の入口」にはなりません。しかしながら、思考や表現を広げる力にはなりにくいものです。大切なのは、ただ分かるだけで終わるのではなく、その一文を「噛みしめる」ように何度も使い、広げ、言い換えながら、自分の言葉へと変えていくことだと考えています。その過程を通してこそ、語彙・表現・構文が結びつき、発信へとつながっていきます。

話題文から具体文を書く練習を何回かさせた後、話題文+具体文の形になっている英文を毎月生徒に渡しているプリントに5から8題ほど掲載し、和訳させています。骨のある英文はなかなか読み取れないこともありますが、読解力はつきます。このとき生徒に読ませる話題文+具体文の形の英文は、生徒に持たせている『英単語99%』から生徒が続きを書けそうな話題文を選び、具体文を追加することで作っています。生徒が普段触れている教材の英文を使うことで、その教材の文を「噛みしめられる」からです。例えば**"Many people want to get rich."**(『英単語99%』Stage 3, p.159)という英文の続きを考えてみます。私は次のような英文を作成しました。

Many people want to get rich these days. However, when students are asked what they want to do with the money, some of them reply, "I just want to save it," or "I don't have any special reason." When I ask them what they want to buy, they often cannot name anything. Surprisingly, they have nothing in particular they really want. When I was young, it was very different.

近年では、AIを活用すれば、生徒に読ませたい英文を効率的に作成することも可能です。こうした最新のテクノロジーを、教材作成の一助として取り入れることも有効な方法の一つだと思います。そこで「続きを考えて。」とAIに聞いてみました。すると

Many people want to get rich these days. They believe money will make their lives happier and easier. However, money alone cannot give us a clear purpose. If we do not know what we truly want, getting rich will not change much. What really matters is having a dream and working hard to achieve it.

少し難しい英文になりました。このような英文を読む際、生徒はまずトピックセンテンスを捉え、その後続く具体文との関係を考えます。自ら書いた経験がある構造であれば、処理は格段に容易になります。

教科書で扱われている短くすぐに理解できる英文だけでは思ったほどは読解力がつかない現状をなんとか打開したいと考えてこのような授業を行っています。

中学校英語で4技能を統合的に育てようとする、検定教科書だけでは質の高いインプット量が決定的に不足しています。これは教科書の質の問題ではなく、制度上、量を抑える役割を担っていることも起因していると思います。したがって、少しレベルの高い理解可能な英語に繰り返し触れる機会を確保し、発信に必要な材料を蓄えるために、教科書を補完する教材の活用が不可欠となると私は考えています。

●3 書くことから、読むことへ

Writingは単なる表現活動ではありません。英文の構造を理解し、自らの言葉で再構成する営みです。こうしたWriting中心の指導を続ける中で感じるのは、生徒が「書く経験」を積むほど、英文を読む時にも構造を手がかりに意味を捉えるようになるということです。自分で作ったことのある構造や表現は、読解の場面でも処理が容易になります。つまり、Writingは単なる表現活動ではなく、Reading力を育てるための重要な準備過程でもあります。3年間を貫く計画的な実践により、「書ける力」が「読める力」へと醸成されていくのです。

以下は、3年間『英単語99%』を使用した生徒の感想です。

高校入試対策だけでなく、英語検定の学習にも適しており、とても使いやすい教材でした。掲載されている英文は簡潔で、日常生活でも活用できるものが多く、大変参考になりました。また、一つの単語に対して複数の例文が示されており、特に2～3文ずつ整理されている点が分かりやすかったです。ペアでの音読や赤シートを用いた学習を通して、自分の英語力が大きく向上したと感じています。

